



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



星や月の話 魚の話 人間の話



お化けの話 虫の話 獣の話



草の話 蛇や蛙の話 鳥の話

本文中の章立てにある挿絵—更科の版画と思われる



『アイヌ民話集』

アイヌの人たちに語り伝えられている文芸には、英雄叙事詩(ユカラ、サコロベ)・神謡(カムイユカラ)・散文(ウエベケレ)などがあります。更科が生まれた熊牛原野の家には、虹別や塘路のコタンと行き来するアイヌの人たちが休憩を取りに寄っていきます。更科は幼いころから、いりり端に座るアイヌの古老が語ってくれるいろいろな話を、古老のひざの中で聞いていました。

1930(昭和5)年、先生のいな屈斜路コタンの学校の代用教員になった更科は、毎夜コタンの古老たちの話す物語を聞き、民族の清らかな澄んだ精神世界に触れます。その後、アイヌ文化の研究をすることにになり、北海道各地のコタンを歩きます。

『アイヌ民話集』は、更科が道内各地のコタンを訪ね、古老たちが話してくれたものを、文学の形式にとらわれず、資料の収集を第一としたものです。先達の研究者の文献を参考にしながら、人間の話・獣の話・鳥の話・魚の話・虫の話・蛇や蛙の話・星や月の話・お化けの話・草の話の9種類にまとめました。

「獣の話」の章から、屈斜路コタンの弟子カムイマ老が語ってくれた「兎の神様」を要約して紹介してみます。

雪の上を自由に走っているシカをうらやんだウサギが、俺の足は、空を飛ばうと思えば飛べ、水の上も走ることができる」とウソの自慢をした。シカはその足をどうしても欲しくなり、雪の上を自由に走れる自分の足とウサギの足を取り替えた。ウサギはうれしさに着物をひっくり返して着て走りだした。

しかし、だまされたと分かったシカが、たき火の燃えさしをウサギに投げつけたが、ウサギの耳の先をかすめて落ちた。

それからウサギは、雪の上を自由に走ることができるようになり、夏と冬の毛色が変わり、耳の先が今も黒い。

シカは自由に雪の上を走ることができなくなり、人間が薬に取れるようになったことから、ウサギは神様と言われる。

(要約は筆者)

動物たちの形態や生態を覚えやすいように民話にしています。

更科は「私はもとより民俗学を専攻した者でもなく、民話蒐集(収集)家でもない。ただ清らかな民族の保存していた人類初発のけがれな文化の姿を、少しでも正しく記録して置きたかった」。アイヌ部落は実に民話の宝庫であったと言います。



石道 元太 ちゃん



黒萩 玖徳 ちゃん



高橋 謙介 ちゃん



坪井 柚奈 ちゃん



松田 天柝 ちゃん



山本 健裕 ちゃん

特定健診受けやすくなる



今月の保健師 後藤 結花 さん

◆特定健診とは

特定健診とは、以前の基本検診が平成20年度の制度の改正により、その目的・内容の変更がされたものです。弟子屈町でも多い糖尿病などの生活習慣病、とりわけ内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の該当者・予備軍を減らす目的があります。

◆特定健診は受けなければいけない?

いろいろなところで「健診を受けてください」と耳にされる方もいるかと思いますが、それにはきちんと理由があります。

①病気の予防、早期発見につながります！

②国から健診受診率を上げるよう宿題を出されています！

◆弟子屈町の皆さんの健康状態

平成20年度の弟子屈町受診率 20・4%

平成24年までに達成すべき目標 65・0%

特に若い世代の受診率が低く、40代で8・5%、50代で12%となっています。

◆健診受診率の現状

健診の受診率を上げるという宿題を国から出されていますが、弟子屈町の受診率はまだまだ目標には遠い状態です。

平成24年までに達成すべき目標 65・0%

平成20年度の弟子屈町受診率 20・4%

これら項目は、年齢を重ねるにつれ血管に負担をかけるので、動脈硬化を進め、生活習慣病へとつながってしまいます。残念ながら、薬を飲んでいても傷ついた血管は元には戻りません。「薬を飲んでいるから」と安心はせずに、健診を受けて自分の健康状態を知り、日々の生活でなにかできることはないか探してみましよう。

い世代)

- 血糖値が高い方が多い。何と、受診者の7割以上の方が高いです！)
- 血圧、コレステロールの高い方が多い。

◆受診率が低いままだとどうなる?

目標が達成できない場合、後期高齢者医療支援金の町の負担が、現段階では約1千300万円も増えます。これを国民健康保険加入者で考えると、一人当たり4千100円の税金負担が増えることになります。3人家族の場合は、1万2千300円も負担が増えます。

金銭面のこと大切ですが、何より一人一人が元気で、自分らしく過ごせることが一番です。今まで健診を受ける習慣のなかった方も多いと思います。一年に一度、自分の身体と向き合ってみませんか？

平成22年度の健診は、4月と10月にあります。事前に広報などでお知らせしますので、ぜひ健診を受けましょう！

□問い合わせ先/役場保健福祉課 健康推進係 ☎482・2935 (課直通)まで

《お知らせ》

乳がん子宮がん検診のクーポン券は、使用期限が3月31日(水)までとなっています。クーポン券をお持ちの方で、まだ検診を受けていない方は、忘れずに受けましょう。